

(In Japan), six kinds <of coins> are used.

日本では6種類の硬貨が使われています

- six kinds が S（主語）、 are used が V（動詞）です。
- in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本で」という意味をもち、動詞 are used の場所を説明しています。

- of coins は修飾語で形容詞のはたらきです。six kinds を説明しています。

(Among them), the five-yen coin has a hole (in the middle).

それらの中で、5円硬貨には真ん中に穴があります

- the five-yen coin が S（主語）、 has が V（動詞）、 a hole が O（目的語）です。
- in the middle は修飾語で副詞のはたらきです。

「真ん中に」という意味をもち、動詞 has の場所を説明しています。

- Among them は修飾語で副詞のはたらきです。

them は 前の文の six kinds of coins を指しています。

ここでは、6種類の硬貨の中で、その中の1つとして、5円硬貨について述べられています。

The fifty-yen coin has a hole, (too).
S V O

50 円硬貨にも穴があります。

- The fifty-yen coin が S（主語）、 has が V（動詞）、 a hole が O（目的語）です。
- too は副詞です。50 円硬貨も 5 円硬貨と同じ特徴があることを示しています。

(Then), why do they have holes?
なぜ S V O

they = the five-yen coin と the fifty-yen coin

では、それらにはなぜ穴があるのでしょうか

- they が S（主語）、 have が V（動詞）、 holes が O（目的語）です。

※ they = the five-yen coin と the fifty-yen coin

- Then は副詞です。

「では、次に」といった意味を持ち、前の文を受けて話の流れを次へ進める役割をしています。

- why は理由をたずねる疑問詞です。

ここでは「なぜそれらに穴があるのか」をたずねています。

I think [there are some reasons <for that>].
S V V S
there are 以下は名詞節、think の目的語 O

私はそれにはいくつか理由があると思います

○ I が S（主語）、think が V（動詞）、there are some reasons for that が O（目的語）です。

※ there are 以下は名詞節、think の目的語

○ there are some reasons for that は主語と動詞をふくむ節（名詞節）です。

some reasons が S（主語）、are が V（動詞）です。

○ for that は修飾語で形容詞のはたらきです。some reasons を説明しています。

that は前の文の why do they have holes? 「なぜそれらに穴があいているのか」をさし
ています。

You use many kinds of yakimono (in your everyday life).
S V O

あなたは、あなたの毎日の生活で、たくさんの種類の焼き物を使います。

- You が S (主語)、 use が V (動詞)、 many kinds of yakimono が O (目的語) です。
- in your everyday life は修飾語で副詞のはたらきです。

「日常生活で」という意味をもち、動詞 use の場所や状況を説明しています。

(When you eat meals), you use a rice bowl.
S V O S V O

食事をするとき、あなたは茶碗を使います。

- 2つ目の you が S (主語)、 use が V (動詞)、 a rice bowl が O (目的語) です。
- When you eat meals は主語と動詞をふくむ節 (副詞節) です。
- you が S (主語)、 eat が V (動詞)、 meals が O (目的語) です。
- 「you use a rice bowl するのは、どんなときか」を説明しています。

(When you drink tea), you use a tea cup.

紅茶を飲むとき、あなたはティーカップを使います

- 2つ目の you が S (主語)、 use が V (動詞)、 a tea cup が O (目的語) です。
- When you drink tea は主語と動詞をふくむ節 (副詞節) です。
- you が S (主語)、 drink が V (動詞)、 tea が O (目的語) です。
- 「you use a tea cup するのは、どんなときか」を説明しています。

These things are called yakimono.

これらのものは焼き物と呼ばれています

- These things が S (主語)、 are called が V (動詞)、 yakimono が C (補語) です。
- These things = yakimono の関係です。

We make yakimono (with clay).

私たちは土で焼き物を作ります。

- We が S (主語)、 make が V (動詞)、 yakimono が O (目的語) です。
- with clay は修飾語で副詞のはたらきです。

「土で」という意味をもち、動詞 make の材料を説明しています。

(Although the first products <of yakimono> <in Japan> were weak),

people can produce stronger yakimono (now).

日本の最初の焼き物の製品はもろかったですが今ではより頑丈な焼き物を作ることができます。

- people が S（主語）、 can produce が V（動詞）、 stronger yakimono が O（目的語）です。
- now は副詞です。現在は頑丈な焼き物を作ることができるようになったことを示しています。
- Although the first products of yakimono in Japan were weak は主語と動詞をふくむ節（副詞節）です。
- the first products が S（主語）、 were が V（動詞）、 weak が C（補語）です。
- the first products = weak の関係です。
- of yakimono は修飾語で形容詞のはたらきです。 the first products を説明しています。
- in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。
the first products of yakimono を説明しています。
- 「people can produce stronger yakimono now」に対して逆説の関係を示しています。

Yakimono is (also) called setomono (especially
in the east area <of Japan>).

The diagram shows the sentence structure with labels: 'S' under 'Yakimono', 'V' under 'is called', and 'C' under 'setomono'. A bracket connects 'is called' and 'setomono'. 'the east area' is enclosed in a box.

焼き物は、特に東日本の地域で、瀬戸物とも呼ばれています。

- Yakimono が S (主語)、 is called が V (動詞)、 setomono が C (補語) です。
 - Yakimono = setomono の関係です。
 - also は副詞です。動詞 is called を修飾し、他にも呼び名があることを示しています。
 - especially in the east area of Japan は修飾語で副詞のはたらきです。
- 「特に日本の東部地域で」という意味をもち、動詞 is called の場所を説明しています。

People have loved [wearing jeans] (since ^{they は jeans} they were created
S V O S V
(as workwear)).

人々はジーンズが作業服として作られて以来ずっと、ジーンズを履くことを愛しています。

○ People が S (主語)、 have loved が V (動詞)、 wearing jeans が O (目的語) です。

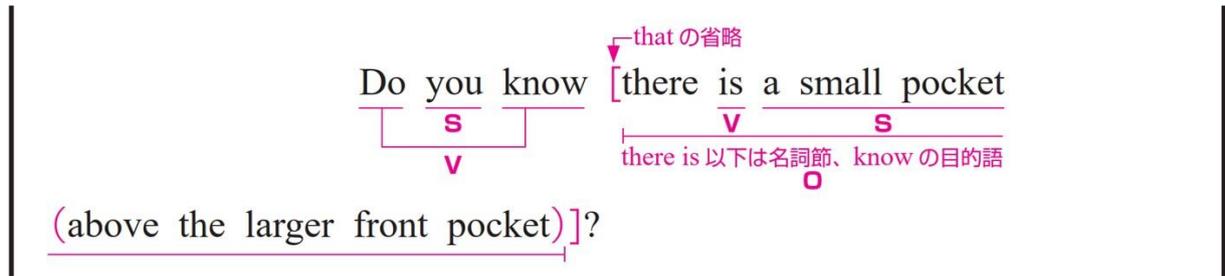
※ wearing は動名詞

○ since they were created as workwear は主語と動詞をふくむ節 (副詞節) です。

they が S (主語)、 were created が V (動詞) です。

○ as workwear は修飾語で副詞のはたらきです。

「作業着として」という意味をもち、動詞 were created の目的を説明しています。



大きな前ポケットの上に小さなポケットがあるのを知っていますか

○ you が S (主語)、 know が V (動詞)、 there is a small pocket above the larger front pocket が O (目的語) です。

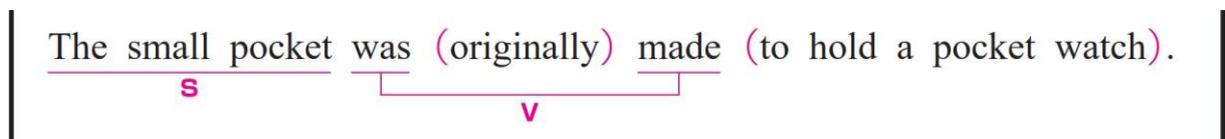
※ there is 以下は名詞節、know の目的語

○ there is a small pocket above the larger front pocket は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

a small pocket が S (主語)、 is が V (動詞) です。

○ above the larger front pocket は修飾語で副詞のはたらきです。

「大きな前ポケットの上に」という意味をもち、動詞 is の場所を説明しています。



私はそれにはいくつか理由があると思います

○ The small pocket が S (主語)、 was made が V (動詞) です。

○ originally は副詞です。「元々」という意味をもちます。

○ to hold a pocket watch は不定詞です。

「懐中時計を入れるために」という意味をもち、動詞 was made の目的を説明しています。

(In the 1870s), people didn't use wristwatches, and

they (usually) used pocket watches.

1870年代には、人々は腕時計を使わず、たいてい懐中時計を使っていました

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、people が S (主語)、didn't use が V (動詞)、wristwatches が O (目的語) です。
- 第2の節は、they が S (主語)、used が V (動詞)、pocket watches が O (目的語) です。
- usually は副詞です。
「たいてい」という意味をもち、動詞 used の頻度を説明しています。
- In the 1870s は修飾語で副詞のはたらきです。
「1870年代に」という意味をもち、動詞 didn't use と used の時間を説明しています。

I'm Tomoki.
S V C

ぼくはトモキです。

- I が S (主語)、am ('m) が V (動詞)、Tomoki が C (補語) です。

Have you (ever) been (to a hot spring)?
S V

あなたは温泉に行ったことがありますか

- you が S (主語)、Have been が V (動詞) です。
- ever は副詞です。「これまでに」という意味をもちます。
- to a hot spring は修飾語で副詞のはたらきです。

「温泉へ」という意味をもち、動詞 have been の場所を説明しています。

(Nowadays),

many Japanese people consider hot spring resorts as tourist spots.
S V O
consider A as B で「A を B だと思う」

この頃は多くの日本人が温泉リゾートを観光地だと思っています

- many Japanese people が S (主語)、consider が V (動詞)、hot spring resorts が O (目的語) です。
- Nowadays は副詞です。「この頃は」という意味をもちます。
- consider hot spring resorts as tourist spots は「温泉リゾートを観光地だと思ふ」という意味です。

They (usually) stayed (there)

S

V

(for more than a week)!

彼らはたいてい1週間以上そこに滞在しました

- They が S (主語)、 stayed が V (動詞) です。
- usually は副詞です。「たいてい、通常」という意味をもち、動詞 stayed の頻度を説明しています。
- there は副詞です。「そこに」という意味をもち、動詞 stayed の場所を説明しています。
- for more than a week は修飾語で副詞のはたらきです。
「1週間以上の間」という意味をもち、動詞 stayed の期間を説明しています。

(In the 19th century), people started

[to stay (at popular hot springs) (for a few days) (during their trips)].

19世紀に人々は、旅行中に人気のある温泉に数日間滞在し始めました

○ people が S (主語)、 started が V (動詞)、 to 以下「滞在すること」が O (目的語) です。

○ In the 19th century は修飾語で副詞のはたらきです。

「19世紀に」という意味をもち、文全体の時期を説明しています。

○ at popular hot springs は修飾語で副詞のはたらきです。

「人気のある温泉で」という意味をもち、動詞 stay の場所を説明しています。

○ for a few days は修飾語で副詞のはたらきです。

「数日間」という意味をもち、動詞 stay の期間を説明しています。

○ during their trip は修飾語で副詞のはたらきです。

「旅行中に」という意味をもち、動詞 stay の期間を説明しています。

I have been (to hot springs) (many times), but
S V

I have never stayed (for more than a week).
S V

ぼくは何度も温泉に行ったことがあります。1週間以上滞在したことは一度もありません。

○ この文は2つの節で構成され、but によって結ばれています。

○ 第1の節は、I が S (主語)、have been が V (動詞) です。

○ to hot springs は修飾語で副詞のはたらきです。

「温泉へ」という意味をもち、動詞 have been の場所を説明しています。

○ many times は修飾語で副詞のはたらきです。

「何度も」という意味をもち、動詞 have been の頻度を説明しています。

○ 第2の節は、I が S (主語)、have never stayed が V (動詞) です。

○ for more than a week は修飾語で副詞のはたらきです。

「1週間以上」という意味をもち、動詞 have never stayed の期間を説明しています。

I'm Emily.
S V C

私はエミリーです。

- I が S (主語)、 am ('m) が V (動詞)、 Emily が C (補語) です。

I came (to Japan) (half a year ago).
S V

半年前に日本に来ました。

- I が S (主語)、 came が V (動詞) です。

- to Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本に」という意味をもち、 came の場所を説明しています。

- half a year ago は修飾語で副詞のはたらきです。

「半年前」という意味をもち、動詞 came の期間を説明しています。

I have loved [reading comic books] (since then).
S V O

それ以来ずっと、マンガ本を読むのが大好きです。

- I が S (主語)、 have loved が V (動詞)、 reading comic books が O (目的語) です。

- since then は修飾語で副詞のはたらきです。

「それ以来」という意味をもち、動詞 have loved の始点を説明しています。

(This month), I've read fifty comic books!
S V O

今月、私はマンガ本を50冊読みました!

- I が S (主語)、 have read が V (動詞)、 fifty comic books が O (目的語) です。
- This month は修飾語で副詞のはたらきです。

「今月」という意味をもち、文全体の時期を説明しています。

(also) loves comic books.
V O

My friend, Yuto,
S

友人のユウトもマンガ本が大好きです

- My friend, Yuto が S (主語)、 loves が V (動詞)、 comic books が O (目的語) です。
- Yuto は同格の挿入句として My friend を具体的に説明しています。

「私の友人であるユウト」という情報を付加しています。

- also は副詞です。「～もまた」という意味をもちます。

(Yesterday), he lent me a new comic book.
S V O O

昨日、彼は私に新しいマンガ本を貸してくれました。

- he が S (主語)、lent が V (動詞)、me が O (目的語)、a new comic book が O (目的語) です。
- Yesterday は修飾語で副詞のはたらきです。「昨日」という意味をもち、文全体の時期を説明しています。

Oh, I have (just) received a message <from him>.
S V O

わあ、ちょうど彼からのメッセージを受け取りました。

- I が S (主語)、have received が V (動詞)、a message が O (目的語) です。
- Oh は感情や驚きを表す単語です。
- just は副詞です。「ちょうど、たった今」という意味をもちます。
- from him は修飾語で形容詞のはたらきです。
「彼から」という意味をもち、名詞 a message の送り主を説明しています。

He says, “Have you finished [reading that comic book] (yet)?
S V S V O

I want [to talk (about the exciting story) (with you)]!
S V O

彼は「あなたはあのマンガをもう読み終えましたか。ぼくはわくわくする物語についてあなたと話したいです!」と言っています。

- He says の発話を中心に、引用符内に2つの文で構成されています。
- He が S (主語)、says が V (動詞) です。
- 引用文1は、you が S (主語)、Have finished が V (動詞)、reading that comic books が O (目的語) です。
- yet は副詞です。疑問文で、「もう～しましたか?」という意味をもちます。
- 引用文2は、I が S (主語)、want が V (動詞)、to 以下「話すこと」が O (目的語) です。
- about the exciting story は修飾語で副詞のはたらきです。
「わくわくする物語について」という意味をもち、動詞 talk を説明しています。
- with you は修飾語で副詞のはたらきです。
「あなたと一緒に」という意味をもち、動詞 talk を説明しています。

I'll answer,
S V

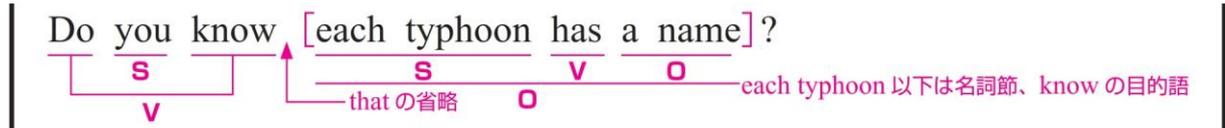
it = that comic book

“I haven't read it (yet). I'm (just) about to start [reading it]!”

S V O S V O

私は「私はまだそれを読んでいません。私はまさにそれを読み始めようとしているところです!」と返事をするつもりです。

- I'll answer の発話を中心に、引用符内に2つの文で構成されています。
- 引用文1は、I が S (主語)、haven't read が V (動詞)、it が O (目的語) です。
- yet は副詞です。否定文で、「まだ～していない」という意味をもちます。
- 引用文2は、I が S (主語)、am about to start が V (動詞)、reading it が O (目的語) です。
- am about to は「～しようとしている」という意味をもちます。
- just は副詞です。「ちょうど、たった今」という意味をもちます。



あなたはそれぞれの台風の名前を知っていますか

○ you が S (主語)、 Do know が V (動詞)、 each typhoon has a name が O (目的語) です。

○ each typhoon has a name は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

each typhoon が S (主語)、 has が V (動詞)、 a name が O (目的語) です。



台風は何年もの間、アジアの国々に影響を与え続けています。

○ Typhoons が S (主語)、 have been affecting が V (動詞)、 Asian countries が O (目的語) です。

○ for many years は修飾語で副詞のはたらきです。

「何年もの間」という意味をもち、動詞 have been affecting の期間を説明しています。

People used to use English names (for typhoons) (before),

but (now), those names are related (to Asia).

人々は以前は台風に英語名を使っていましたが、今では、それらの名前はアジアに関連しています。

- この文は2つの節で構成され、but によって結ばれています。
- 第1の節は、People が S (主語)、used to use が V (動詞)、English names が O (目的語) です。
- used to は助動詞のようにはたらき、「以前は～していた」という意味をもちます。
- for typhoons は修飾語で副詞のはたらきです。
「台風のための」という意味をもち、動詞 used to use の目的を説明しています。
- before は副詞です。「以前は」という意味をもちます。
- 第2の節は、those names が S (主語)、are related が V (動詞) です。
- to Asia は修飾語で副詞のはたらきです。
「アジアに関係している」という意味をもち、動詞 are related を説明しています。
- now は副詞です。「今では」という意味をもち、現在の状況を説明しています。

How long have people been using Asian names?
どれくらい長く S V O

人々はどれくらいアジア名を使い続けていますか

- people が S (主語)、 have been using が V (動詞)、 Asian names が O (目的語) です。
- How long は「どれくらい長く」という意味をもち、期間をたずねています。

They have been using such names (since 2000).
S V O

彼らはそのような名前を2000年から使い続けています。

- They が S (主語)、 have been using が V (動詞)、 such names が O (目的語) です。
- since 2000 は修飾語で副詞のはたらきです。
「2000年から」という意味をもち、動詞 have been using の始点を説明しています。

Japan (also)
S

suggests names <to give (to typhoons)>, <such as Koto or Yagi>.
V O

日本もまた、コトやヤギのような、台風に与えるための名前を提案しています

○ Japan が S (主語)、 suggests が V (動詞)、 names が O (目的語) です。

○ to give to typhoons は修飾語で形容詞のはたらきです。

「台風に与えるための」という意味をもち、名詞 names の性質を説明しています。

さらに、to typhoons は 修飾語として副詞のはたらきをし、何に対して give するかを説明しています。

○ such as Koto or Yagi は names を補足的に説明しています。(同格)

These names come (from the names <of stars>).
S V

これらの名前は星の名前に由来しています

○ These names が S (主語)、 come が V (動詞) です。

○ from the names of stars は修飾語で副詞のはたらきです。

「星の名前から」という意味をもち、動詞 come の起源を説明しています。

さらに、of stars は 修飾語として形容詞のはたらきをし、名詞 the names を説明しています。

I'm Yuka.
S V C

私はユカです。

- I が S (主語)、 am ('m) が V (動詞)、 Yuka が C (補語) です。

My uncle lives (in Kagoshima), and he grows bananas.
S V S V O

私のおじさんは鹿児島に住んでいて、バナナを栽培しています。

- この文は2つの節で構成され、 and によって結ばれています。
- 第1の節は、 My uncle が S (主語)、 lives が V (動詞) です。
- in Kagoshima は修飾語で副詞のはたらきです。
「鹿児島に」という意味をもち、動詞 lives の場所を説明しています。
- 第2の節は、 he が S (主語)、 grows が V (動詞)、 bananas が O (目的語) です。

I (often) buy my family bananas (at a supermarket).
S V O O

私はスーパーマーケットでよく自分の家族にバナナを買います。

- I が S (主語)、 buy が V (動詞) です。
- buy のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。
- my family は「買う相手：誰 (間接 O)」を示しています。
- bananas は「買うもの：何 (直接 O)」を示しています。
- often は副詞です。「よく (しばしば)」という意味をもち、動詞 buy の頻度を説明しています。
- at a supermarket は修飾語で副詞のはたらきです。

「スーパーマーケットで」という意味をもち、動詞 buy の場所を説明しています。

(A few days later), we find some brown spots (on the banana peel).
S V O

数日後、私たちはバナナの皮にいくつかの茶色いはん点を見つけます。

- we が S (主語)、 find が V (動詞)、 some brown spots が O (目的語) です。
 - on the banana peel は修飾語で副詞のはたらきです。
- 「バナナの皮の上に」という意味をもち、動詞 find の場所を説明しています。
- A few days later は修飾語で副詞のはたらきです。

「数日後に」という意味をもち、動詞 find の時間を説明しています。

People ^{them = brown spots} call them sugar spots.
S V O C

人々はそれらをシュガースポットと呼びます。

○ We が S (主語)、call が V (動詞)、them が O (目的語)、sugar spots が C (補語) です。

○ them = sugar spots の関係です。

sugar spots が them の名称を説明する補語になっています。

The spots show [that the bananas are (very) sweet].
S V S V C
O

そのはん点は、そのバナナがとても甘いことを示しています。

○ The spots が S (主語)、show が V (動詞)、that the bananas are very sweet が O (目的語) です。

○ that the bananas are very sweet は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

○ the bananas が S (主語)、are が V (動詞)、sweet が C (補語) です。

○ that は、名詞節を導く接続詞で「～ということ」という意味をもちます。(省略されることも多いです)

○ very は副詞です。形容詞 sweet を強調しています。

We can say [sugar spots teach us the right time <to eat them>].
S V S V O O O

シュガースポットは私たちにそれらを食べるための適切な時期を教えていると言えます

○ We が S (主語)、 can say が V (動詞)、 sugar spots teach us the right time to eat them が O (目的語) です。

○ sugar spots teach us the right time to eat them は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

○ sugar spots が S (主語)、 teach が V (動詞) です。

teach のあとに、2 種類の O (目的語) が続いています。

○ us は「教えられる相手：誰 (間接 O)」を示しています。

○ the right time は「教えられる内容：何 (直接 O)」を示しています。

○ to eat them は修飾語で形容詞のはたらきです。

「それら (バナナ) を食べるための」という意味をもち、 the right time を説明しています。

Hi, my name is Ayaka and I like [reading books].

こんにちは、私の名前はアヤカで、本を読むことが好きです。

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、My name が S (主語)、is が V (動詞)、Ayaka が C (補語) です。
- 第2の節は、I が S (主語)、like が V (動詞)、reading books が O (目的語) です。
- reading books は「本を読むこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

[Reading books] makes me very happy.

私は本を読むととても幸せになります。

- Reading books が S (主語)、makes が V (動詞)、me が O (目的語)、very happy が C (補語) です。
 - Reading books は「本を読むこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。
 - me = very happy の関係です。
- very happy が me の状態を説明する補語になっています。

(every month).

I read five books
S V O

私は毎月5冊の本を読みます。

○ I が S (主語)、read が V (動詞)、 five books が O (目的語) です。

○ every month は修飾語で副詞のはたらきです。

「毎月」という意味をもち、動詞 read の時間を説明しています。

My brother (also) likes [reading books].
S V O

私の兄[弟]も本を読むことが好きです。

○ My brother が S (主語)、likes が V (動詞)、 soccer が O (目的語) です。

○ reading books は「本を読むこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ also は副詞です。「～もまた」という意味をもち、追加情報を示しています。

He reads more than ten books (every month).
S V O

彼は毎月10冊以上の本を読みます。

○ He が S (主語)、reads が V (動詞)、 more than ten books が O (目的語) です。

○ every month は修飾語で副詞のはたらきです。

「毎月」という意味をもち、動詞 reads の頻度を説明しています。

He (usually) reads books <from foreign countries>,
S V O

but I (usually) read Japanese books.
S V O

彼はたいてい外国の本を読みますが、私はたいてい日本の本を読みます。

- この文は2つの節で構成され、but によって結ばれています。
- 第1の節は、He が S (主語)、reads が V (動詞)、books が O (目的語) です。
- usually は副詞です。「たいてい (通常は)」という意味をもち、動詞 reads を修飾しています。
- from foreign countries は修飾語で形容詞のはたらきです。books を説明しています。
- 第2の節は、I が S (主語)、read が V (動詞)、Japanese books が O (目的語) です。
- usually は副詞です。「たいてい (通常は)」という意味をもち、動詞 read を修飾しています。

My favorite book is Botchan <by Natsume Soseki>.
S V C

私のお気に入りの本は夏目漱石の『坊っちゃん』です。

- My favorite book が S (主語)、is が V (動詞)、Botchan が C (補語) です。
- by Natsume Soseki は修飾語で形容詞のはたらきです。Botchan を説明しています。

My father introduced it (to me).
S V O

私の父が私にそれを紹介してくれました

- My father が S（主語）、introduced が V（動詞）、it が O（目的語）です。
- to me は修飾語で副詞のはたらきです。

「私に」という意味をもち、動詞 introduced の相手を説明しています。

The book is (a little) difficult, but it impresses me (very much).
S V C S V O

その本は少し難しいですが、とても感動します。

- この文は2つの節で構成され、but によって結ばれています。
- 第1の節は、The book が S（主語）、is が V（動詞）、difficult が C（補語）です。
- a little は副詞句です。「少し」という意味をもち、形容詞 difficult を修飾しています。
- 第2の節は、it が S（主語）、impresses が V（動詞）、me が O（目的語）です。
- very much は修飾語で副詞のはたらきです。

「とても」という意味をもち、動詞 impresses の程度を説明しています。

Many people <all over the world> like [to go fishing].
S V O

世界中の多くの人々は釣りに行くことが好きです。

- Many people が S (主語)、 like が V (動詞)、 to go fishing が O (目的語) です。
- to go fishing は「釣りをすること」という意味で、名詞として扱っています。
- all over the world は修飾語で形容詞のはたらきです。

「世界中で」という意味をもち、Many people を修飾しています。

It is ~ for 人 to ...
However, it is difficult (for Germans) [to enjoy it].
形式主語 V C S

しかし、ドイツ人たちにとってそれを楽しむのは難しいです。

- to enjoy it が S (主語)、 is が V (動詞)、 difficult が C (補語) です。
- It は形式主語で、文の構造を整えるはたらきです。実際の意味をもちません。
- to enjoy it は「それを楽しむこと」という意味で、名詞として扱っています。
- to enjoy it = difficult の関係です。

difficult が 主語 to enjoy it の難易度を説明する補語になっています。

- to enjoy it の it は、 to go fishing を指しています。
- for Germans は修飾語で副詞のはたらきです。

「ドイツ人にとって」という意味をもち、形容詞 difficult を修飾しています。

- However は副詞です。「しかしながら」という意味を持ち、前の文との対照的な関係を強調しています。

They have to get a national license <for it>.
S V O

彼らはそのための国家資格をとらなければなりません。

- They が S (主語)、 have to get が V (動詞)、 a national license が O (目的語) です。
- for it は修飾語で形容詞のはたらきです。

「それ (=釣りをすること) のための」という意味をもち、 a national license を修飾しています。

(Also), this license must be renewed (every few years).
S V

また、この資格は数年ごとに更新されなければなりません。

- this license が S (主語)、 must be renewed が V (動詞) です。
- every few years は修飾語で副詞のはたらきです。

「数年ごとに」という意味をもち、動詞 be renewed の頻度を説明しています。

- Also は副詞です。「また (さらに)」という意味を持ち、前の文の内容に情報を付け加える役割をしています。

The purpose S <of this strict system> is V [to protect C the environment
<in Germany>].

この厳しい制度の目的は、ドイツの環境を守ることです。

○ The purpose が S (主語)、is が V (動詞)、to protect the environment in Germany が C (補語) です。

○ to protect the environment in Germany は「ドイツの環境を守ること」という意味で、名詞として扱っています。

○ The purpose = to protect the environment in Germany の関係です。

to protect the environment in Germany が 主語 The purpose の内容を説明する補語になっています。

○ of this strict system は修飾語で形容詞のはたらきです。

「この厳しい制度の」という意味をもち、The purpose を修飾しています。

○ in Germany は修飾語で形容詞のはたらきです。

「ドイツの」という意味をもち、the environment を修飾しています。

To fish (without knowledge)] can damage the environment.
S V O

知識なしで釣りをすることは環境に被害を与える可能性があります。

○ To fish が S (主語)、 can damage が V (動詞)、 the environment が O (目的語) です。

○ without knowledge は修飾語で形容詞のはたらきです。

「知識なしに」という意味をもち、the environment を修飾しています。

○ To fish without knowledge は「知識なしに釣りをすること」という意味で、名詞として扱っています。

So, the tests are ^{not only A but also B} about the knowledge <of fish and fishing>
S V C
but also about environmental laws.

だから、試験は魚や釣りの知識についてばかりでなく環境の法律についてもあります

○ the tests が S (主語)、 are が V (動詞)、 about the knowledge と about environmental laws が C (補語) です。

○ not only ... but also ... は「～だけでなく、～もまた」という意味で、「試験の内容は魚や釣りの知識だけでなく、環境の法律についても」含まれることを示しています。

○ of fish and fishing は修飾語で形容詞のはたらきです。

「魚や釣りに関する知識」という意味をもち、the knowledge を修飾しています。

○ So は副詞です。

「だから (その結果)」という意味を持ち、前の文と論理的につながることを示しています。

Their ears have a rich network <of blood vessels>, and

it helps [to cool the blood].

彼らの耳には豊富な血管網があり、それが血液を冷やすことに役立っています。

- この文は2つの節で構成され、and によって結ばれています。
- 第1の節は、Their ears が S (主語)、 have が V (動詞)、 a rich network が O (目的語) です。
- of blood vessels は修飾語で形容詞のはたらきです。
- 「血管の網 (ネットワーク)」という意味をもち、 a rich network を修飾しています。
- 第2の節は、it が S (主語)、 helps が V (動詞)、 to cool the blood が O (目的語) です。
- to cool the blood は「血液を冷やすこと」という意味で、名詞として扱っています。
- it は、a rich network of blood vessels を指しています。

However, elephants' noses are ^{too ~ to ... ~すぎて…できない} (too) long (to breathe (well)).
S V C

しかし、ゾウの鼻は長すぎてじょうずに呼吸することができません。

- elephants' noses が S (主語)、are が V (動詞)、 long が C (補語) です。
- too は副詞です。「あまりにも～すぎる」という意味で、形容詞 long を修飾しています。
- to breathe well は「じょうずに呼吸する」という意味で、副詞のはたらきです。

形容詞 long を修飾し、「呼吸するには長すぎる」「長すぎてじょうずに呼吸することができない」という意味です。

- well は副詞です。「じょうずに」という意味をもち、動詞 breathe を修飾しています。

(Luckily), their ears are ^{big enough to ... …するのに十分大きい} big enough (to cool their large bodies).
S V C

幸いにも、彼らの耳はその大きな体を冷やすのに十分な大きさです。

- their ears が S (主語)、are が V (動詞)、 big enough が C (補語) です。
- to cool their large bodies は「彼らの大きな体を冷やすのに」という意味で、副詞のはたらきです。 big enough を修飾しています。
- Luckily は副詞です。「幸いにも」という意味をもち、文全体を修飾しています。

You may be surprised (to learn [there is an important reason
 S V V S
↑ that の省略
there is 以下は名詞節、learn の目的語
〈for that action〉])).

あなたはその行動に重要な理由があることを知って驚くかもしれません

- You が S (主語)、may be surprised が V (動詞) です。
- to learn there is an important reason for that action は「その行動に対する重要な理由を知って」という意味で、副詞のはたらきです。
may be surprised を修飾しています。
- for that action は修飾語で形容詞のはたらきです。
「その行動に対する」という意味をもち、an important reason を修飾しています。

(If you want [to enjoy watching movies (with a big picture
and good sound)]), you should go (to a movie theater).

もしあなたが大きな映像とよい音声で映画を見て楽しみたいなら、あなたは映画館に行くべきです。

① If you want to enjoy watching movies with a big picture and good sound,

○ you が S (主語)、 want が V (動詞)、 to enjoy watching movies with a big picture and good sound が O (目的語) です。

○ to enjoy watching movies with a big picture and good sound は「大きな画面とよい音で映画を見ることを楽しむこと」という意味で、名詞のはたらきです。

○ If は、条件を表す接続詞で、「もし～なら」という意味をもちます。

② you should go to a movie theater.

○ you が S (主語)、 should go が V (動詞) です。

○ to a movie theater は修飾語で副詞のはたらきです。

「映画館へ」という意味をもち、動詞 go を修飾しています。

It is very exciting.
S V C

それはとてもわくわくします。

- It が S (主語)、is が V (動詞)、very exciting が C (補語) です。
- It = very exciting の関係です。この It は going to a movie theater を指しています。

(If you don't want [to go (to the theater)]),
S V O
you should use a video streaming service.
S V O

もしあなたが映画館に行きたくなかったら、あなたは動画配信サービスを使うべきです。

① If you don't want to go to the theater,

- you が S (主語)、don't want が V (動詞)、to go to the theater が O (目的語) です。
- to go to the theater は「映画館に行くこと」という意味で、名詞のはたらきです。
- to the theater は修飾語で副詞のはたらきです。

「映画館へ」という意味をもち、動詞 go を修飾しています。

- If は、条件を表す接続詞で、「もし～なら」という意味をもちます。

② you should use a video streaming service.

- you が S (主語)、should use が V (動詞)、a video streaming service が O (目的語) です。

You can find movies <to watch>.
S V O

あなたは見るべき映画を見つけることができます

○ You が S (主語)、can find が V (動詞)、 movies が O (目的語) です。

○ to watch は「見るための」という意味で、形容詞のはたらきです。

movies を修飾しています。

You can enjoy [watching them] (at home) (at any time).
S V O

あなたはそれらを家でいつでも見て楽しむことができます。

○ You が S (主語)、can enjoy が V (動詞)、 watching them が O (目的語) です。

○ watching them は「それらを見ること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

この them は前文の movies を指しています。

○ at home は修飾語で副詞のはたらきです。

「どこで楽しむか」という場所を説明しています。

○ at any time は修飾語で副詞のはたらきです。

「いつ楽しむか」という時を説明しています。

Tom is studying Japanese (at a college <in Japan>).

S V O

トムは日本の大学で日本語を勉強しています。

○ Tom が S (主語)、is studying が V (動詞)、 Japanese が O (目的語) です。

○ at a college in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本にある大学で」という意味をもち、動詞 is studying の場所を説明しています。

○ in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。

「日本の」という意味をもち、a college を修飾しています。

(When he doesn't know something),

people <around him> (always) tell him [what to do].

彼が何かわからないとき、いつも彼のまわりの人々が彼に何をすればよいか教えてくれます。

○ この文は、従属節 “When he doesn't know something,” と主節 “people around him always tell him what to do” の2つの部分からなる複文です。

① When he doesn't know something,

○ when は、時間を表す接続詞で、「～するとき」という意味をもちます。

○ he が S (主語)、 doesn't know が V (動詞)、 something が O (目的語) です。

② people around him always tell him what to do

○ people が S (主語)、 tell が V (動詞) です。

○ around him は修飾語で形容詞のはたらきです。

「彼のまわりの」という意味をもち、people を修飾しています。

○ tell のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。

○ him は「伝えた相手：誰 (間接 O)」を示しています。

○ what to do は「伝えたこと：何 (直接 O)」を示しています。

「何をすべきか」という意味で、名詞として扱っています。

○ always は副詞です。「いつも」という意味をもち、動詞 tell を修飾しています。

(Last Sunday),

he went (to the library <next to his town>) (by train) (alone).
S V

この前の日曜日、彼は隣町の図書館に電車に乗ってひとりで行きました。

① Last Sunday,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「先週の日曜日」という意味をもち、文全体の時を表しています。

② he went to the library next to his town by train alone.

○ he が S (主語)、 went が V (動詞) です。

○ to the library next to his town は修飾語で副詞のはたらきです。

「彼の町の隣にある図書館へ」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

○ next to his town は修飾語で形容詞のはたらきです。

「彼の町の隣にある」という意味をもち、the library を修飾しています。

○ by train は修飾語で副詞のはたらきです。

「電車で」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

○ alone は副詞です。「一人で」という意味をもち、動詞 went を修飾しています。

(On his way home), he got lost.

家に帰る途中、彼は道に迷いました。

① On his way home,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「彼の帰る途中」という意味をもち、動詞 got lost を修飾しています。

② he got lost.

○ he が S (主語)、 got が V (動詞)、 lost が C (補語) です。

And she told him [how to get (to the station)].
S V O O

そして彼女は駅までの行き方を彼に教えてくれました。

- she が S (主語)、told が V (動詞) です。
- told のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。
- him は「教えた相手：誰 (間接 O)」を示しています。
- how to get to the station は「教えたこと：何 (直接 O)」を示しています。

「どのように駅へ行くか」という意味で、名詞として扱っています。

- to the station は修飾語で副詞のはたらきです。

「駅へ」という意味をもち、動詞 get の場所を説明しています。

(Last weekend) I visited my grandmother
S V O

(because I wanted her to teach cooking (to me)).
S V O
want 人 to ~ 人に~してほしい

ぼくは祖母に料理を教えてほしかったので、この前の週末に彼女を訪ねました。

① Last weekend I visited my grandmother

- I が S (主語)、visited が V (動詞)、my grandmother が O (目的語) です。
- Last weekend は修飾語で副詞のはたらきです。「先週末に」という時を説明しています。

② because I wanted her to teach cooking to me.

- I が S (主語)、wanted が V (動詞)、her が O (目的語) です。
- to teach cooking は「料理を教えること」という意味で、名詞として扱っています。

意味上の主語は her です。

- to me は修飾語で副詞のはたらきです。

「私に」という意味をもち、teach を修飾しています。

- because は、前の文の理由を示すために使われています。

I wanted [to make dinner (for my mother) (on her birthday)].
S V O

ぼくは、ぼくの母の誕生日に彼女に夕食を作りたかったのです。

○ I が S (主語)、 wanted が V (動詞)、 to make dinner for my mother on her birthday が O (目的語) です。

○ to make dinner for my mother on her birthday は「母の誕生日に彼女に夕食を作ること」という意味で、名詞として扱っています。

○ for my mother は修飾語で副詞のはたらきです。

「母のために」という意味をもち、make を修飾しています。

○ on her birthday は修飾語で副詞のはたらきです。

「母の誕生日に」という意味をもち、make を修飾しています。

My grandmother said, “Kenta, your mother likes beef stew

(very much), so you should cook it (for her).”

祖母は「ケンタ、あなたのお母さんはビーフシチューがとても好きなの、だからそれを彼女に作ってあげるべきよ。」と言いました。

① My grandmother said,

○ My grandmother が S (主語)、 said が V (動詞) です。

② Kenta, your mother likes beef stew very much,

○ your mother が S (主語)、 likes が V (動詞)、 beef stew が O (目的語) です。

○ very much は修飾語で副詞のはたらきです。

「とても」という意味をもち、likes を修飾しています。

○ Kenta は名前を呼びかけています。

③ so you should cook it for her.

○ so は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

○ you が S (主語)、 should cook が V (動詞)、 it が O (目的語) です。

○ it は beef stew を指しています。

○ for her は修飾語で副詞のはたらきです。

「彼女 (お母さん) のために」という意味をもち、cook を修飾しています。

I learned [how to cook it] (from my grandmother).
S V O

ぼくは祖母からその作り方を学びました。

- I が S (主語)、learned が V (動詞)、 how to cook it が O (目的語) です。
- how to cook it は「どのようにそれを料理するか (=作り方)」という意味で、名詞として扱っています。
- from my grandmother は修飾語で副詞のはたらきです。
「祖母から」という意味をもち、learned を修飾しています。

(On my mother's birthday) I cooked it (for her).
S V O

母の誕生日に、ぼくはそれを彼女に作りました。

- I が S (主語)、cooked が V (動詞)、it が O (目的語) です。
- for her は修飾語で副詞のはたらきです。
「彼女 (お母さん) のために」という意味をもち、cooked を修飾しています。
- On my mother's birthday は修飾語で副詞のはたらきです。
「母の誕生日に」という意味をもち、文全体の時を表しています。文の先頭に置くことで、時の情報を強調しています。

| She was happy (to eat it).
S V C |

彼女はそれを食べて喜びました。

- She が S (主語)、was が V (動詞)、happy が C (補語) です。
- to eat it は「それを食べて」という意味で、副詞のはたらきです。

形容詞 happy を修飾しています。

| (Now) I know ^{thatの省略} [making dishes is a good way <to thank someone>].
S V S V C O |

今ではぼくは、料理を作ることは誰かに感謝するよい方法だと知っています。

- I が S (主語)、know が V (動詞)、making dishes is a good way to thank someone が O (目的語) です。
- making dishes is a good way to thank someone は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。
- making dishes が S (主語)、is が V (動詞)、a good way が C (補語) です。
- to thank someone は「誰かに感謝するための」という意味で、形容詞のはたらきです。
a good way を修飾しています。
- Now は副詞です。「今では」という意味をもち、文全体を修飾しています。

My parents run a bakery.
S V O

私の両親はパン屋さんを経営しています。

- My parents が S (主語)、run が V (動詞)、 a bakery が O (目的語) です。

I like their bread and I am good (at [baking bread]), (too).
S V O S V C

私は彼らのパンが好きで、私もパンを焼くのが得意です。

① I like their bread

- I が S (主語)、 like が V (動詞)、 their bread が O (目的語) です。

② and I am good at baking bread, too.

- I が S (主語)、 am が V (動詞)、 good が C (補語) です。

- at baking bread は修飾語で副詞のはたらきです。

「パンを焼くことにおいて」という意味をもち、good を修飾しています。

- baking bread は「パンを焼くこと」という意味で、名詞として扱っています。

- too は副詞です。「～もまた」という意味をもち、文全体を修飾しています。

I like mangoes, so I suggested a “mango donut”.

私はマンゴーが好きなので、「マンゴードーナツ」を提案しました。

① I like mangoes,

○ I が S (主語)、like が V (動詞)、mangoes が O (目的語) です。

② so I suggested a “mango donut”.

○ so は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

○ I が S (主語)、suggested が V (動詞)、a “mango donut” が O (目的語) です。

(At first), they didn't like the idea, but they tried it.

初め、彼らはそのアイデアが好きではありませんでしたが、彼らはそれを試してみました。

① At first,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。「最初は」という意味をもち、主に they didn't like the idea を修飾しています。

② they didn't like the idea,

○ they が S (主語)、didn't like が V (動詞)、the idea が O (目的語) です。

③ but they tried it.

○ but は、前の文 (they didn't like the idea) と反対の内容を導いています。

○ they が S (主語)、tried が V (動詞)、it が O (目的語) です。

この it は、= the idea です。

(In fact), it was delicious!
S V C

実際のところ、それはとてもおいしかったです!

① In fact,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。「実は」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② it was delicious!

○ it が S (主語)、was が V (動詞)、delicious が C (補語) です。

it は前の文で述べられた mango donut を指しています。

I was glad (when I saw my parents enjoy [eating it]).
S V C S V O

私は両親がそれを食べて楽しんでいるのを見たときうれしかったです。

① I was glad

○ I が S (主語)、was が V (動詞)、glad が C (補語) です。

② when I saw my parents enjoy eating it.

○ I が S (主語)、saw が V (動詞)、my parents が O (目的語) です。

○ enjoy eating it は、目的語 my parents の動作を表しています。(= I が見た内容)

○ eating it は「それを食べること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ when は、時間を表す接続詞で、「～したとき」という意味をもちます。

glad を修飾し、「いつ私はうれしかったか」を説明しています。

I want [to be a baker <like my parents>] (in the future).
S V O

私は将来、両親のようなパン職人になりたいです。

- I が S (主語)、 want が V (動詞)、 to be a baker like my parents in the future が O (目的語) です。
 - to be a baker like my parents は「両親のようなパン職人になること」という意味で、名詞のはたらきです。
 - like my parents は修飾語で形容詞のはたらきです。 a baker を説明しています。
 - in the future は修飾語で副詞のはたらきです。
- 「将来」という意味をもち、動詞 want を修飾しています。

John is a high school student.
S V C

ジョンは高校生です。

- John が S (主語)、is が V (動詞)、 a high school student が C (補語) です。
- John = a high school student の関係です。

(One Sunday morning), John went (to the park) (with his father).
S V

ある日曜日の朝に、ジョンは父親と公園へ行きました。

① One Sunday morning,

- 修飾語で副詞のはたらきです。

「ある日曜の朝に」という意味をもち、went を修飾しています。

② John went to the park with his father.

- John が S (主語)、 went が V (動詞) です。

- to the park は修飾語で副詞のはたらきです。

「公園へ」という意味をもち、動詞 went の場所を説明しています。

- with his father は修飾語で副詞のはたらきです。動詞 went を修飾しています。

| John's father found a bird (on a tree).
S V O

ジョンの父親は、木の上に1羽の鳥を見つけました。

- John's father が S (主語)、found が V (動詞)、 a bird が O (目的語) です。
- on a tree は修飾語で副詞のはたらきです。

「木の上に」という意味をもち、動詞 found の場所を説明しています。

| He didn't know [what kind of bird it was].
S V C S V
O

彼は、それが何という種類の鳥か知りませんでした。

- He が S (主語)、didn't know が V (動詞)、 what kind of bird it was が O (目的語) です。
- what kind of bird it was は、主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。
it が S (主語)、 was が V (動詞) です。
- 「それは何という種類の鳥ですか」という意味をもち、 know の目的語になっています。

John knew (a lot) (about birds).

ジョンは鳥についてたくさん知っていました。

○ John が S (主語)、knew が V (動詞) です。

○ a lot は修飾語で副詞のはたらきです。

「たくさん」という意味をもち、knew の程度を説明しています。

○ about birds は修飾語で副詞のはたらきです。

「鳥について」という意味をもち、動詞 knew を修飾しています。

He told its name (to his father).

彼は父親にその名前を教えました。

○ He が S (主語)、told が V (動詞)、its name が O (目的語) です。

○ to his father は修飾語で副詞のはたらきです。

「父親に」という意味をもち、動詞 told を修飾しています。

He didn't know [why John knew its name].
S V なぜ S V O

彼はなぜジョンがその名前を知っているのかわかりませんでした。

○ He が S (主語)、didn't know が V (動詞)、 what kind of bird it was が O (目的語) です。

○ why John knew its name は、主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

John が S (主語)、 knew が V (動詞)、 its name が O (目的語) です。

○ 「ジョンがなぜその名前を知っていたのですか」という意味をもち、 know の目的語になっています。

So he said, "Why do you know its name?"
S V なぜ S V O

だから彼は、「なぜその名前を知っているんだい?」と言いました。

① So he said,

○ he が S (主語)、 said が V (動詞) です。

○ So は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

② Why do you know its name?

○ you が S (主語)、 (do ~) know が V (動詞)、 its name が O (目的語) です。

John answered,
S V

“I’m interested (in birds). So I (often) read books <about them>.”
S V C S V O

ジョンは、「ぼくは鳥に興味があるんだ。だからぼくはしばしばそれらについての本を読むよ。」と答えました。

① John answered,

○ John が S (主語)、 answered が V (動詞) です。

② I'm interested in birds.

○ I が S (主語)、 am が V (動詞)、 interested が C (補語) です。

○ in birds は修飾語で副詞のはたらきです。

「鳥に」という意味をもち、 interested を修飾しています。

③ So I often read books about them.

○ I が S (主語)、 read が V (動詞)、 books が O (目的語) です。

○ about them は修飾語で形容詞のはたらきです。

books を説明しています。 them は birds を指しています。

○ often は副詞です。「しばしば」という意味をもち、動詞 read を修飾しています。

○ So は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

(In Japan), some people ask friends' blood types
S V O
(to know their personalities).

日本では、友達の性格を知るために血液型を聞く人がいます。

① In Japan,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「日本では」という意味をもち、動詞 ask を修飾しています。

② some people ask friends' blood types to know their personalities.

○ some people が S (主語)、ask が V (動詞)、friends' blood types が O (目的語) です。

○ to know their personalities は「彼らの性格を知るために」という意味で、副詞のはたらきです。動詞 ask の目的を説明しています。

It is an interesting way <to know each other>, isn't it?
S V C

それは互いを知るためのおもしろい手段ですよ。

○ It が S (主語)、is が V (動詞)、an interesting way が C (補語) です。

It は to ask blood types (血液型を尋ねること) を指しています。

○ to know each other は「お互いを知るための」という意味で、形容詞のはたらきです。

an interesting way を修飾しています。

○ isn't it? は付加疑問です。「ですよ?」という確認や共感を求める言い方です。

(Of course), you know [blood flows (through blood vessels)].

↑ that の省略

S V S V O

もちろん、あなたたちは血液が血管を流れることを知っています。

① Of course,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「もちろん」という意味をもち、主に動詞 know を修飾しています。

② you know blood flows through blood vessels.

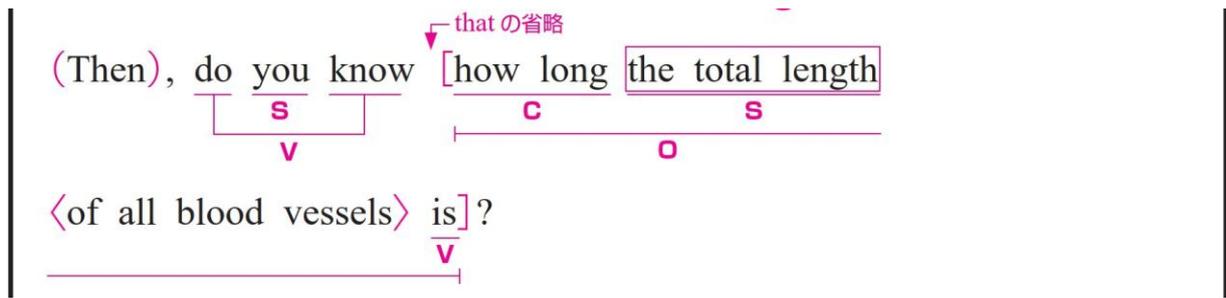
○ you が S (主語)、 know が V (動詞)、 blood flows through blood vessels が O (目的語) です。

○ blood flows through blood vessels は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

○ blood が S (主語)、 flows が V (動詞) です。

○ through blood vessels は修飾語で副詞のはたらきです。

「血管を通して」という意味をもち、動詞 flows を修飾しています。



それでは、すべての血管を合わせた長さがどれだけ長いかを知っていますか。

① Then,

○ 副詞です。「それでは」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② do you know how long the total length of all blood vessels is?

○ you が S (主語)、(do ~) know が V (動詞)、 how long the total length of all blood vessels is が O (目的語) です。

○ how long the total length of all blood vessels is は、主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

the total length of all blood vessels が S (主語)、 is が V (動詞) です。

○ of all blood vessels は修飾語で形容詞のはたらきです。

the total length を説明しています。

○ 「血管全体の長さはどれくらいですか?」という意味をもち、know の目的語になっています。

It is enough (to circle the Earth (two and a half times)).
S V C
It = the total length

それは地球を2周半回るのに十分なものです。

- It が S (主語)、 is が V (動詞)、 enough が C (補語) です。
- to circle the Earth は「地球を回るのに」という意味で、副詞のはたらきです。
enough を修飾しています。
- two and a half times は修飾語で副詞のはたらきです。
「2周半」という意味をもち、動詞 circle を修飾しています。

How long it is!
C S V

なんて長いのでしょうか!

- it が S (主語)、 is が V (動詞)、 How long が C (補語) です。
- ※ 語順を倒置することで強調されています。(感嘆表現)

Didn't you learn one surprising fact <of our body>?

S

O

V

私たちの身体の一つの驚くべき事実を、あなたは学んだのではないですか。

○ you が S (主語)、(Didn't ~) learn が V (動詞)、one surprising fact が O (目的語) です。

○ of our body は修飾語で形容詞のはたらきです。one surprising fact (一つの驚くべき事実) を説明しています。

※ 確認の気持ちをこめた聞き方

What do you like to do (in your free time) ?

O

S

V

基本構造は、do you like to do what in your free time

あなたは自由な時間に何をするのが好きですか。

○ you が S (主語)、(do ~) like が V (動詞)、What to do in your free time が O (目的語) です。

○ in your free time は修飾語で副詞のはたらきです。

「自由な時間に」という意味をもち、do を修飾しています。

I like [reading books] (very much).

S

V

O

ぼくは本を読むのが大好きです。

○ I が S (主語)、like が V (動詞)、reading books が O (目的語) です。

○ very much は修飾語で副詞のはたらきです。

「とても/非常に」という意味をもち、like を修飾しています。

I think [I can get a lot (from books)].
S V S V O
O

↑ that の省略

ぼくは本からたくさんのごとを得られると思います。

- I が S (主語)、 think が V (動詞)、 I can get a lot from books が O (目的語) です。
- I can get a lot from books は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。
- I が S (主語)、 can get が V (動詞)、 a lot が O (目的語) です。
- from books は修飾語で副詞のはたらきです。

「本から」という意味をもち、動詞 get を修飾しています。

I read books (for more than two hours) (almost every day).
S V O

ぼくはほとんど毎日、2時間以上本を読みます。

- I が S (主語)、 read が V (動詞)、 books が O (目的語) です。
 - for more than two hours は修飾語で副詞のはたらきです。
- 「2時間以上」という意味をもち、read を修飾しています。
- almost every day は修飾語で副詞のはたらきです。

「ほとんど毎日」という意味をもち、read を修飾しています。

I like The Adventures of Tom Sawyer (the best).
S V O

ぼくは「トム・ソーヤーの冒険」がいちばん好きです。

○ I が S (主語)、 like が V (動詞)、 The Adventures of Tom Sawyer が O (目的語) です。

○ the best は修飾語で副詞のはたらきです。

「いちばん」という意味をもち、like を修飾しています。

It's a story <about a boy <trying to do exciting things
S V C
(with his friends)>>>.

それは友達とわくわくするようなことをしようとする少年の物語です

○ It が S (主語)、 is が V (動詞)、 a story が C (補語) です。

○ about a boy trying to do exciting things with his friends は修飾語で形容詞のはたらきです。

「友達とわくわくするようなことをしようとする少年についての」という意味をもち、a story を説明しています。

○ trying to do exciting things with his friends は修飾語で形容詞のはたらきです。

「友達とわくわくするようなことをしようとする」という意味をもち、a boy を説明しています。

○ with his friends は修飾語で副詞のはたらきです。 trying to do を修飾しています。

I've read this book (many times)
S V O

(because it (really) makes me happy).
S V O C

その本を読むと本当に楽しくなるので、ぼくは何度もこの本を読んだことがあります。

① I've read this book many times

- I が S (主語)、 have read が V (動詞)、 this book が O (目的語) です。
- many times は修飾語で副詞のはたらきです。

「何度も」という意味をもち、 read を修飾しています。

② because it really makes me happy.

- it が S (主語)、 makes が V (動詞)、 me が O (目的語)、 happy が C (補語) です。
- me = happy の関係です。
- really は副詞です。「本当に」という意味をもち、動詞 makes を修飾しています。
- because は、前の文の理由を示すために使われています。

I want a lot of people to read *The Adventures of Tom Sawyer*.

S V O
want 人 to ~ 人に~してほしい

ぼくはたくさんの人に「トム・ソーヤーの冒険」を読んでほしいです。

- I が S (主語)、 want が V (動詞)、 a lot of people が O (目的語) です。
- to read *The Adventures of Tom Sawyer* は「『トム・ソーヤーの冒険』を読むこと」という意味で、名詞として扱っています。

意味上の主語は、 a lot of people です。

I (always) bring a picture <of my dog <named Nana>> (with me).
S V O

私はナナという名前の私のイヌの写真をいつも持ってきます。

- I が S (主語)、bring が V (動詞)、a picture が O (目的語) です。
- of my dog named Nana は修飾語で形容詞のはたらきです。a picture を説明しています。
- named Nana は修飾語で形容詞のはたらきです。
「ナナと名づけられた」という意味をもち、my dog を説明しています。
- with me は修飾語で副詞のはたらきです。
「私と一緒に」という意味をもち、動詞 bring を修飾しています。
- always は副詞です。「いつも」という意味をもち、動詞 bring を修飾しています。

She lives (with my parents) (in Hokkaido).
S V

彼女は、北海道で私の両親といっしょに暮らしています。

- She が S (主語)、lives が V (動詞) です。
- with my parents は修飾語で副詞のはたらきです。
「両親と一緒に」という意味をもち、動詞 lives を修飾しています。
- in Hokkaido は修飾語で副詞のはたらきです。
「北海道に」という意味をもち、動詞 lives を修飾しています。

(Now) I am (in America) (to study English),
S V

so I miss her (so much).
S V O

私は今、英語を勉強するためにアメリカにいるので彼女がいなくてとてもさみしいです。

① Now I am in America to study English,

○ I が S (主語)、am が V (動詞) です。

○ in America は修飾語で副詞のはたらきです。

「アメリカに」という意味をもち、am の場所を説明しています。

○ to study English は「英語を勉強するために」という意味で、副詞のはたらきです。

動詞 am の目的を説明しています。

○ Now は副詞です。「今」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② so I miss her so much.

○ I が S (主語)、miss が V (動詞)、her が O (目的語) です。 (her = Nana)

○ so much は修飾語で副詞のはたらきです。

「たくさん」という意味をもち、miss の程度を説明しています。

○ so は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

Nana is seven years old (now).
S V C

ナナは今7歳です。

- Nana が S (主語)、 is が V (動詞)、 seven years old が C (補語) です。
- now は副詞です。「今」という意味をもち、文全体を修飾しています。

She came (to our house) (six years ago).
S V

彼女は6年前に私たちの家に来ました。

- She が S (主語)、 came が V (動詞) です。
- to our house は修飾語で副詞のはたらきです。
「私たちの家に」という意味をもち、動詞 came を修飾しています。
- six years ago は修飾語で副詞のはたらきです。
「6年前に」という意味をもち、動詞 came を修飾しています。

(When we had snow), we enjoyed [running the road
S V O S V O
<covered (with snow)>].

雪が降ると、私たちは雪でおおわれた道を走って楽しみました。

① When we had snow,

○ we が S (主語)、 had が V (動詞)、 snow が O (目的語) です。

② we enjoyed running the road covered with snow.

○ we が S (主語)、 enjoyed が V (動詞)、 running the road covered with snow が O (目的語) です。

○ running the road covered with snow は「雪で覆われた道を走ること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ covered with snow は修飾語で形容詞のはたらきです。 the road を説明しています。

○ with snow は修飾語で副詞のはたらきです。

I (sometimes) find a dog
S V O

<running (with his or her owner)> (in America).

ときどきアメリカで、飼い主といっしょに走っているイヌを見つけます。

○ I が S (主語)、 find が V (動詞)、 a dog が O (目的語) です。

○ running with his or her owner は修飾語で形容詞のはたらきです。

a dog を説明しています。

○ with his or her owner は修飾語で副詞のはたらきです。

「飼い主と一緒に」という意味をもち、動詞 running を修飾しています。

○ in America は修飾語で副詞のはたらきです。

「アメリカで」という意味をもち、動詞 find を修飾しています。

○ sometimes は副詞です。動詞 find を修飾しています。

I (always) remember Nana (then).
S V O

そのとき私はいつもナナを思い出します。

○ I が S (主語)、 remember が V (動詞)、 Nana が O (目的語) です。

○ always は副詞です。「いつも」という意味をもち、動詞 remember を修飾しています。

○ then は副詞です。「そのとき」という意味をもち、動詞 remember を修飾しています。

(In the early Meiji period), many Western people came (to Japan).

明治時代初期、多くの西洋人たちが日本にやってきました。

① In the early Meiji period,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「明治時代初期に」という意味をもち、主に came を修飾しています。

② many Western people came to Japan.

○ many Western people が S (主語)、 came が V (動詞) です。

○ to Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本に」という意味をもち、came を修飾しています。

However, people ^{関係代名詞 who} <who entered Japanese houses
(without [taking off their shoes])> caused trouble
(for the Japanese).

しかし、靴を脱がずに日本の家屋に入った人々が、日本人に問題を引き起こしました。

① However,

○ 副詞です。「しかし」という意味をもち、文全体を修飾し、前文との対比を示しています。

② people who entered Japanese houses without taking off their shoes caused trouble for the Japanese.

○ people が S (主語)、 caused が V (動詞)、 trouble が O (目的語) です。

○ who entered Japanese houses without taking off their shoes は主語と動詞をふくむ節です。

「靴を脱がずに日本の家屋に入った」という意味をもち、 people を修飾しています。

○ who が S (主語)、 entered が V (動詞)、 Japanese houses が O (目的語) です。

○ without taking off their shoes は修飾語で副詞のはたらきです。

「靴を脱がずに」という意味をもち、動詞 entered を修飾しています。

○ taking off their shoes は「靴を脱ぐこと」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ for the Japanese は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本人にとって」という意味をもち、caused を修飾しています。

Tokuno Risaburo was a man
S V C

関係代名詞 who

<who solved this problem (then)>.
S V O

徳野利三郎が、そのときその問題を解決した人でした。

- Tokuno Risaburo が S (主語)、 was が V (動詞)、 a man が C (補語) です。
- who solved this problem then は主語と動詞をふくむ節です。
「そのときにこの問題を解決した」という意味をもち、 a man を修飾しています。
- who が S (主語)、 solved が V (動詞)、 this problem が O (目的語) です。
- then は副詞です。「そのとき」という意味をもち、動詞 solved を修飾しています。

He invented slippers.
S V O

彼はスリッパを発明したのです。

- He が S (主語)、 invented が V (動詞)、 slippers が O (目的語) です。
- He = Tokuno Risaburo を指しています。

Slippers are the shoes ^{関係代名詞 which} <which are worn (indoors)>.
S V C S V

スリッパは室内で履かれる靴です。

○ Slippers が S (主語)、 are が V (動詞)、 the shoes が C (補語) です。

○ which are worn indoors は主語と動詞をふくむ節です。

「室内で履かれる」という意味をもち、 the shoes を修飾しています。

○ which が S (主語)、 are worn が V (動詞) です。

○ indoors は副詞です。「室内で」という意味をもち、 are worn を修飾しています。

(At first), people wore them (over their shoes).
S V O

最初、人々はそれを靴の上から履いていました。

① At first,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「最初は」という意味をもち、主に wore を修飾しています。

② people wore them over their shoes.

○ people が S (主語)、 wore が V (動詞)、 them が O (目的語) です。

○ them は slippers を指しています。

○ over their shoes は修飾語で副詞のはたらきです。

「靴の上に」という意味をもち、 wore を修飾しています。

They spread (throughout Japan).
S V

それは日本中に広まりました。

- They が S (主語)、 spread が V (動詞) です。
- They は slippers を指しています。
- throughout Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本中に」という意味をもち、 spread を修飾しています。

Slippers are
S V
one <of the greatest inventions <that were born (in Japan)>>.
C S V

スリッパは日本で生まれた最も偉大な発明品のひとつです。

- Slippers が S (主語)、 are が V (動詞)、 one が C (補語) です。
- of the greatest inventions that were born in Japan は修飾語で形容詞のはたらきです。

one を説明しています。

- that were born in Japan は主語と動詞をふくむ節です。

「日本で生まれ」という意味をもち、 inventions を修飾しています。

- that が S (主語)、 were born が V (動詞) です。
- in Japan は修飾語で副詞のはたらきです。

「日本で」という意味をもち、 were born を修飾しています。

Colds are (basically) caused (by viruses).
S V

風邪は基本的にウイルスによって引き起こされます。

- Colds が S (主語)、 are caused が V (動詞) です。
- by viruses は修飾語で副詞のはたらきです。

「ウイルスによって」という意味をもち、動詞 are caused を修飾しています。

- basically は副詞です。「基本的に」という意味をもち、動詞 are caused を修飾しています。

A cold (always) comes (from another person <with the virus>).
S V

風邪はいつもウイルスを持った別の人から来ます。

- A cold が S (主語)、 comes が V (動詞) です。
- from another person with the virus は修飾語で副詞のはたらきです。
「ウイルスをもつ他人から」という意味をもち、動詞 comes を修飾しています。
- with the virus は修飾語で形容詞のはたらきです。 another person を説明しています。
- always は副詞です。「いつも」という意味をもち、動詞 comes を修飾しています。

(If you catch a cold), you should be careful (not to spread it).

もしあなたが風邪をひいたら、それを広げないように気をつけるべきです。

① If you catch a cold,

○ you が S (主語)、 catch が V (動詞)、 a cold が O (目的語) です。

○ If は、条件を表す接続詞で、「もし～なら」という意味をもちます。

② you should be careful not to spread it.

○ you が S (主語)、 should be が V (動詞)、 careful が C (補語) です。

○ not to spread it は「それをうつさないようにするために」という意味で、副詞のはたらきです。 careful を修飾しています。

○ it は a cold を指しています。

Do not sneeze or cough (onto other people),
V

(into the air), or (into your hands).

他の人や、空気中に向けてや、あなたの手に向けて、くしゃみやせきをしてはいけません。

- 命令文です。
- Do not sneeze or cough が V (動詞) です。
- onto other people は修飾語で副詞のはたらきです。

「他の人に向かって」という意味をもち、sneeze / cough を修飾しています。

- into the air は修飾語で副詞のはたらきです。

「空気中に」という意味をもち、sneeze / cough を修飾しています。

- into your hands は修飾語で副詞のはたらきです。

「自分の手の中に」という意味をもち、sneeze / cough を修飾しています。

(If your hands have the virus (on them)),
 S V O

you will leave it (on everything <that you touch>).
 S V O O S V

もしあなたの手にウィルスがつくとあなたがさわるすべてのものに、それをつけることになります。

① If your hands have the virus on them,

- your hands が S (主語)、 have が V (動詞)、 the virus が O (目的語) です。
- on them は修飾語で副詞のはたらきです。

「手に」という意味をもち、動詞 have を修飾しています。

- If は、条件を表す接続詞で、「もし～なら」という意味をもちます。

② you will leave it on everything that you touch.

- you が S (主語)、 will leave が V (動詞)、 it が O (目的語) です。
- on everything that you touch は修飾語で副詞のはたらきです。

「あなたが触れるすべてのものに」という意味をもち、動詞 leave を修飾しています。

- that you touch は主語と動詞をふくむ節です。

「あなたが触れる」という意味をもち、everything を修飾しています。

- you が S (主語)、 touch が V (動詞)、 that が O (目的語) です。

Try [to sneeze or cough (into a tissue <that you throw away>)].
V O S V

捨てるティッシュペーパーに向けて、くしゃみやせきをするようにしなさい。

- 命令文です。
- Try が V (動詞)、to sneeze or cough into a tissue that you throw away が O (目的語) です。
- to sneeze or cough into a tissue that you throw away は「くしゃみやせきを、捨てるティッシュにすること」という意味で、名詞として扱っています。
- into a tissue that you throw away は修飾語で副詞のはたらきです。
「捨てるティッシュに向かって」という意味をもち、sneeze / cough を修飾しています。
- that you throw away は主語と動詞をふくむ節です。
「あなたが捨てる」という意味をもち、tissue を修飾しています。
you が S (主語)、throw away が V (動詞)、that が O (目的語) です。

Lorenz was a boy <whose hobby was [studying animals]>.
S V C S V C
関係代名詞 whose

ローレンツは動物の研究が趣味の少年でした。

○ Lorenz が S (主語)、 was が V (動詞)、 a boy が C (補語) です。

○ whose hobby was studying animals は主語と動詞をふくむ節です。

「動物の研究が趣味の」という意味をもち、 a boy を修飾しています。

○ whose hobby が S (主語)、 was が V (動詞)、 studying animals が C (補語) です。

○ studying animals は「動物を研究すること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

(Even after he became an adult), he kept [studying animals].
S V C S V O

彼は大人になったあとも、動物の研究を続けました。

① Even after he became an adult,

○ he が S (主語)、 became が V (動詞)、 an adult が C (補語) です。

○ to do は「するべき」という意味で、形容詞のはたらきです。 nothing を修飾しています。

○ Even after は、「～した後でさえ」という意味をもちます。

② he kept studying animals.

○ he が S (主語)、 kept が V (動詞)、 studying animals が O (目的語) です。

○ studying animals は「動物を研究すること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

(Actually), birds think of the first thing <they see (when they're born)>
S V O S V S V
think of A as B AをBとみなす

↑ which[that]の省略

as their own parents.

実は、鳥は生まれたときに見た最初のものを自分の親と思うのです。

- Actually は副詞です。「実は」という意味をもち、文全体を修飾しています。
- birds が S (主語)、 think of が V (動詞)、 the first thing が O (目的語) です。
- as their own parents は think of A as B の B にあたります。
「自分の親として」という意味で、 the first thing をどう考えているかを説明しています。
- they see when they're born は主語と動詞をふくむ節です。
「生まれたときに見る」という意味をもち、 the first thing を修飾しています。
they が S (主語)、 see が V (動詞) です。
- when they're born は主語と動詞をふくむ節です。
「生まれたときに」という意味をもち、動詞 see を修飾しています。
they が S (主語)、 are born が V (動詞) です。

Lorenz was the man ^{関係代名詞 whom} <whom the chick saw (for the first time)>.
S V C O S V

ローレンツが、そのひなが見た最初の人だったのです。

○ Lorenz が S (主語)、 was が V (動詞)、 the man が C (補語) です。

○ whom the chick saw for the first time は主語と動詞をふくむ節です。

「ひな鳥が初めて見た」という意味をもち、 the man を修飾しています。

○ the chick が S (主語)、 saw が V (動詞)、 whom が O (目的語) です。

○ for the first time は修飾語で副詞のはたらきです。

「初めて、最初に」という意味をもち、動詞 saw を修飾しています。

That was the incident ^{前置詞 at + 関係代名詞 which} <at which he was surprised>.
S V C S V

それは彼が驚いた出来事でした。

○ That が S (主語)、 was が V (動詞)、 the incident が C (補語) です。

○ at which he was surprised は主語と動詞をふくむ節です。

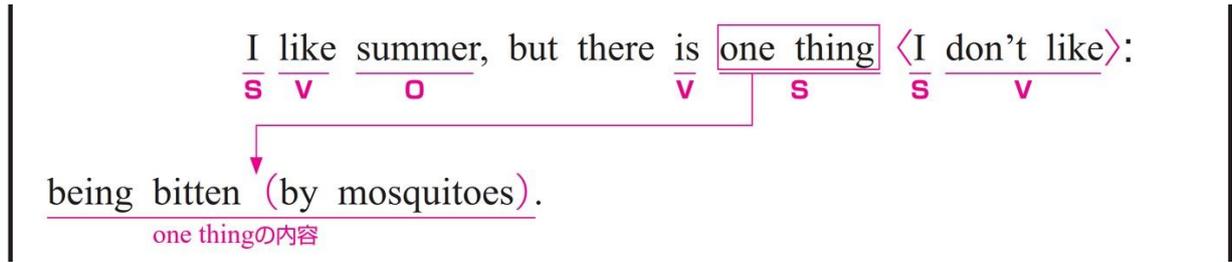
「彼が驚いた」という意味をもち、 the incident を修飾しています。

○ he が S (主語)、 was surprised が V (動詞) です。

I'm Sana.
S V C

私はサナです。

- I が S (主語)、am が V (動詞)、Sana が C (補語) です。
- I = Sana の関係です。



私は夏が好きですが、好きではないことが一つあります。それは、蚊に刺されることです。

① I like summer,

○ I が S (主語)、 like が V (動詞)、 summer が O (目的語) です。

② but there is one thing I don't like

○ one thing が S (主語)、 is が V (動詞) です。

○ I don't like は主語と動詞をふくむ節です。

「好きではない」という意味をもち、one thing を修飾しています。

○ I が S (主語)、 don't like が V (動詞) です。

○ but は、前の文 (I like summer) と反対の内容を導いています。

③ : being bitten by mosquitoes.

○ being bitten by mosquitoes は「蚊に刺されること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ by mosquitoes は修飾語で副詞のはたらきです。

「蚊によって」という意味をもち、being bitten を修飾しています。

○ コロン (:) は「具体的な説明・言い換え」を導きます。

(Sometimes), I wish [I lived (in a world <without mosquitoes>)].

ときどき、蚊のいない世界に住んでいたらいいなと思います。

① Sometimes,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。

「ときどき」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② I wish I lived in a world without mosquitoes.

○ I が S (主語)、wish が V (動詞)、I lived in a world without mosquitoes が O (目的語) です。

○ I lived in a world without mosquitoes は、主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。

○ I が S (主語)、live が V (動詞) です。

○ in a world without mosquitoes は修飾語で副詞のはたらきです。

「蚊のいない世界に」という意味をもち、動詞 lived の場所を説明しています。

○ without mosquitoes は修飾語で形容詞のはたらきです。a world を説明しています。

However, mosquitoes play a very important role (to make chocolate).

しかし、蚊はチョコレートを作るためにとても重要な役割を果たしています。

① However,

○ 副詞です。「しかし」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② mosquitoes play a very important role to make chocolate.

○ mosquitoes が S (主語)、play が V (動詞)、a very important role が O (目的語) です。

○ to make chocolate は「チョコレートを作るために」という意味で、副詞のはたらきです。

動詞 play の目的を説明しています。

Chocolate is made (from cacao).

チョコレートはカカオからできています。

○ Chocolate が S (主語)、is made が V (動詞) です。

○ from cacao は修飾語で副詞のはたらきです。

「カカオから」という意味をもち、is made を修飾、何から作られているか (原材料) を説明しています。

Mosquitoes are essential (for [pollinating cacao plants]).
S V C

蚊はカカオ植物の授粉に不可欠です。

○ Mosquitoes が S (主語)、are が V (動詞)、essential が C (補語) です。

○ Mosquitoes = essential の関係です。

○ for pollinating cacao plants は修飾語で副詞のはたらきです。

「カカオの受粉にとって」という意味をもち、essential を修飾しています。

○ pollinating cacao plants は「カカオ植物に受粉すること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

Cacao flowers are (very) small, so only mosquitoes can pollinate them.
S V C S V O them = cacao flowers

カカオの花はとても小さいため、蚊だけがそれらに授粉できます。

① Cacao flowers are very small,

○ Cacao flowers が S (主語)、are が V (動詞)、small が C (補語) です。

○ very は副詞です。small を修飾しています。

② so only mosquitoes can pollinate them.

○ only mosquitoes が S (主語)、can pollinate が V (動詞)、them が O (目的語) です。

○ so は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

:「花が小さい」→「蚊だけが受粉できる」

(If there were no mosquitoes (in the world)),

we couldn't enjoy [eating chocolate].

もし世界に蚊がいなかったら、私たちはチョコレートを食べ楽しむことができないでしょう。

① If there were no mosquitoes in the world,

○ no mosquitoes が S (主語)、 were が V (動詞) です。

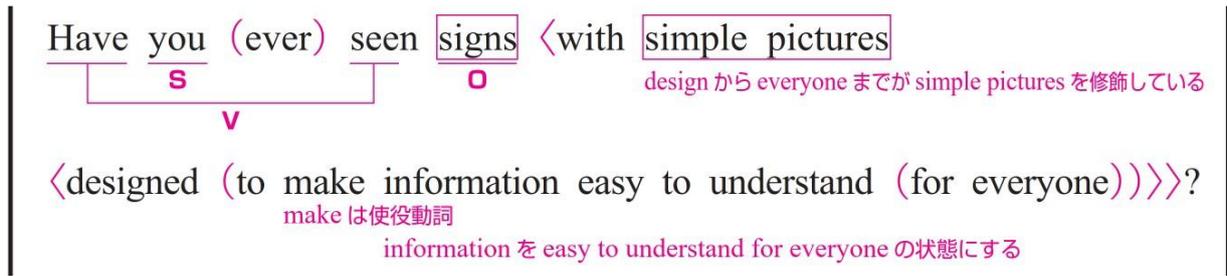
○ in the world は修飾語で副詞のはたらきです。

「世界に」という意味をもち、動詞 were の場所を説明しています。

② we couldn't enjoy eating chocolate.

○ we が S (主語)、 couldn't enjoy が V (動詞)、 eating chocolate が O (目的語) です。

○ eating chocolate は「チョコレートを食べること」という意味で、動作を名詞として扱っています。



誰にとっても情報をわかりやすくするためにデザインされた簡単なイラストのついた標識を、これまでに見たことがありますか

- you が S (主語)、(Have ~) seen が V (動詞)、 signs が O (目的語) です。
- with simple pictures designed to make information easy to understand for everyone は修飾語で形容詞のはたらきです。 signs を説明しています。
- designed to make information easy to understand for everyone は修飾語で形容詞のはたらきです。 simple pictures を説明しています。
- to make information easy to understand for everyone は「誰にとっても情報をわかりやすい状態にするために」という意味で、副詞のはたらきです。
designed の目的を説明しています。
- for everyone は修飾語で副詞のはたらきです。
「みんなにとって」という意味をもち、understand を修飾しています。



これらの絵はピクトグラムと呼ばれます。

- These pictures が S (主語)、 are called が V (動詞)、 pictograms が C (補語) です。

They are useful (because people can understand them (easily)).
S V C S V O

人々はそれらを簡単に理解できるので、役立ちます。

① They are useful

○ They が S (主語)、 are が V (動詞)、 useful が C (補語) です。

② because people can understand them easily.

○ people が S (主語)、 can understand が V (動詞)、 them が O (目的語) です。

○ easily は副詞です。「簡単に」という意味をもち、動詞 understand を修飾しています。

○ because は、前の文の理由を示すために使われています。

(When pictograms are used (on a sign)), colors are important.
S V S V C

ピクトグラムが標識に使われるとき、色が重要です。

① When pictograms are used on a sign,

○ pictograms が S (主語)、 are used が V (動詞) です。

○ on a sign は修飾語で副詞のはたらきです。

「標識で」という意味をもち、 used を修飾しています。

○ When は、時間を表す接続詞で、「～するとき」という意味をもちます。

② colors are important.

○ colors が S (主語)、 are が V (動詞)、 important が C (補語) です。

○ colors = important の関係です。

(For example), green, the opposite color <of red>, is used
S green と同格 V
(for emergency exit signs).

例えば、赤色の反対色である緑色は非常出口の標識に使用されます。

① For example,

○ 修飾語で副詞のはたらきです。「たとえば」という意味をもち、文全体を修飾しています。

② green, the opposite color of red, is used for emergency exit signs.

○ green が S (主語)、 is used が V (動詞) です。

○ the opposite color of red は green を説明する同格表現です。

○ of red は修飾語で形容詞のはたらきです。 the opposite color を説明しています。

(If a fire occurs), green is easy (to see).
S V S V C

もし火が発生すると、緑は見えやすいのです。

① If a fire occurs,

○ a fire が S (主語)、 occurs が V (動詞) です。

○ If は、条件を表す接続詞で、「もし～なら」という意味をもちます。

② green is easy to see.

○ green が S (主語)、 is が V (動詞)、 easy が C (補語) です。

○ green = easy の関係です。

○ to see は「見るのが」という意味で、副詞のはたらきです。形容詞 easy を修飾しています。

(When you put these opposite colors (together)),

they make each other brighter.

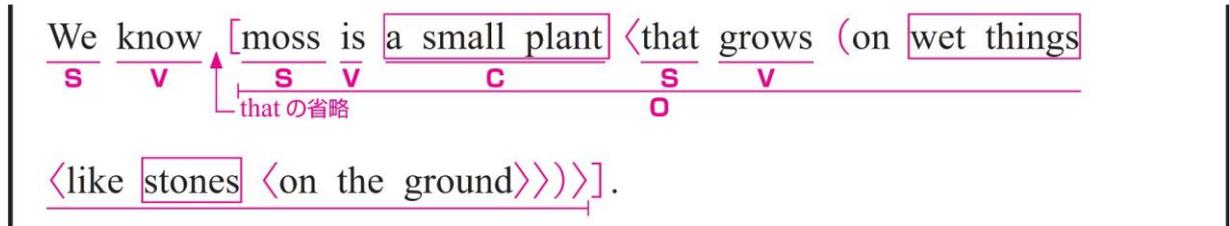
それらの反対色を組み合わせると、お互いをより鮮やかにします。

① When you put these opposite colors together,

- you が S (主語)、 put が V (動詞)、 these opposite colors が O (目的語) です。
- together は副詞です。「一緒に」という意味をもち、動詞 put を修飾しています。
- when は、時間を表す接続詞で、「～したとき」という意味をもちます。

② they make each other brighter.

- they が S (主語)、 make が V (動詞)、 each other が O (目的語)、 brighter が C (補語) です。
- each other = brighter の関係です。



私たちは、コケは地面にある石のように湿ったものに生える小さな植物だということを知っています

○ We が S (主語)、 know が V (動詞)、 moss is a small plant that grows (on wet things like stones on the ground が O (目的語) です。

○ moss が S (主語)、 is が V (動詞)、 a small plant が C (補語) です。

○ that grows on wet things like stones on the ground は主語と動詞をふくむ節です。

「地面にある石のように湿ったものに生える」という意味をもち、 a small plant を修飾しています。

○ that が S (主語)、 grows が V (動詞) です。

○ on wet things like stones on the ground は修飾語で副詞のはたらきです。

「地面にある石のように湿ったものの上に」という意味をもち、 grows を修飾しています。

○ like stones on the ground は修飾語で形容詞のはたらきです。

wet things を説明しています。

○ on the ground は修飾語で形容詞のはたらきです。 stones を説明しています。

Plants cannot grow (on a stone <that is (always) moving>).

S V S V

植物は常に動いている石の上では成長できません。

○ Plants が S (主語)、 cannot grow が V (動詞) です。

○ on a stone that is always moving は修飾語で副詞のはたらきです。

「いつも動いている石の上で」という意味をもち、 grow を修飾しています。

○ that is always moving は主語と動詞をふくむ節です。

「いつも動いている」という意味をもち、 a stone を修飾しています。

○ that が S (主語)、 is moving が V (動詞) です。

○ always は副詞です。「いつも」という意味をもち、動詞 is moving を修飾しています。

A stone is <like life>, and the moss is <like success>.
S V C S V C

石は人生のようなもので、コケは成功のようなものです。

① A stone is like life,

○ A stone が S (主語)、 is が V (動詞)、 like life が C (補語) です。

② and the moss is like success.

○ the moss が S (主語)、 is が V (動詞)、 like success が C (補語) です。

So (in some countries), they say, “A rolling stone gathers no moss.”
S V S V O

それゆえ、いくつかの国では、「転がる石はコケをよせつけない」と言います。

① So in some countries,

○ so は、2つの文をつなぎ、前の内容を受けて、その結果こうなるという意味を表しています。

○ in some countries は修飾語で副詞のはたらきです。

「いくつかの国では」という意味をもち、動詞 say を修飾しています。

② they say,

○ they が S (主語)、 say が V (動詞) です。

③ “A rolling stone gathers no moss.”

○ A rolling stone が S (主語)、 gathers が V (動詞)、 no moss が O (目的語) です。

○ staying at one place for a long time は「長期間、1か所にとどまること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ at one place は修飾語で副詞のはたらきです。

「1か所に」という意味をもち、staying を修飾しています。

○ for a long time は修飾語で副詞のはたらきです。

「長期間」という意味をもち、staying を修飾しています。

③ it will be difficult for him or her to do things well or get much money.

○ to do things well or get much money が S (主語)、will be が V (動詞)、difficult が C (補語) です。

○ to do things well or get much money は「ものごとをうまくやり遂げたり、大金を稼い

だりすること」という意味で、動作を名詞として扱っています。

○ for him or her は修飾語で副詞のはたらきです。

「彼または彼女にとって (=その人にとって)」という意味をもち、difficult を修飾しています。

I'm Yumi.
S V C

私はユミです。

- I が S (主語)、am が V (動詞)、Yumi が C (補語) です。
- I = Yumi の関係です。

My junior high school gives students a chance
S V O O

<to do volunteer activities> (every year).

私の中学校は、毎年生徒たちにボランティア活動を行う機会を与えています。

- My junior high school が S (主語)、gives が V (動詞) です。
- gives のあとに、2種類の O (目的語) が続いています。
- students は「与えられた人：誰 (間接 O)」を示しています。
- a chance は「与えられたもの：何 (直接 O)」を示しています。
- to do volunteer activities は修飾語で形容詞のはたらきです。a chance を説明しています。
- every year は修飾語で副詞のはたらきです。

「毎年」という意味をもち、動詞 gives の頻度を説明しています。

Some visit kindergartens and play (with younger children),
S V O V

others join the activities <to clean our city>.
S V O

幼稚園を訪問して幼児と遊ぶ生徒もいれば、市の掃除をする活動に参加する生徒もいます。

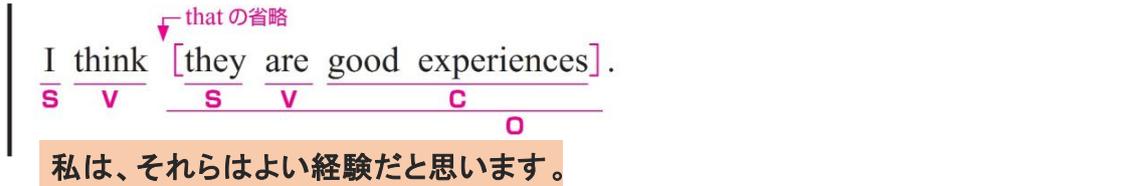
① Some visit kindergartens and play (with younger children,

- Some が S (主語)、visit が 1 つ目の V (動詞)、kindergartens が O (目的語) です。
- play が 2 つ目の V (動詞) で、主語は Some です。
- with younger children は修飾語で副詞のはたらきです。

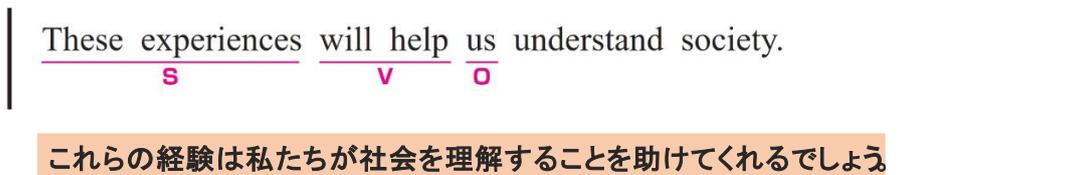
「幼い子どもたちと」という意味をもち、動詞 play を修飾しています。

② others join the activities to clean our city.

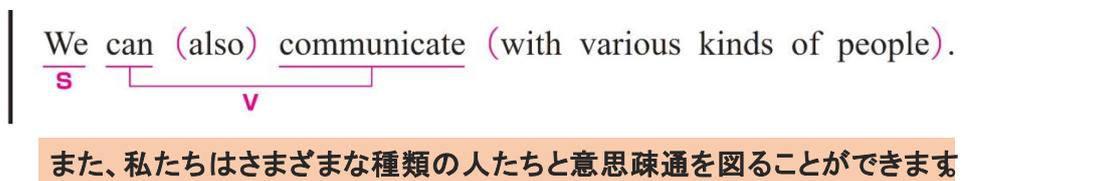
- others が S (主語)、join が V (動詞)、the activities が O (目的語) です。
- to clean our city は「私たちの町を掃除するための」という意味で、形容詞のはたらきです。the activities を修飾しています。



- I が S (主語)、 think が V (動詞)、 they are good experiences が O (目的語) です。
- they are good experiences は主語と動詞をふくむ節 (名詞節) です。
- they が S (主語)、 are が V (動詞)、 good experiences が C (補語) です。
- that は、名詞節を導く接続詞で「～ということ」という意味をもちます。(省略されることも多いです)



- These experiences が S (主語)、 will help が V (動詞)、 us が O (目的語) です。
- understand society は、目的語 us の動作を表しています。



- We が S (主語)、 can communicate が V (動詞) です。
- with various kinds of people は修飾語で副詞のはたらきです。
「さまざまな種類の人たち」という意味をもち、動詞 communicate を修飾しています。
- also は副詞です。「～もまた」という意味をもち、動詞 communicate を修飾しています。

(When we finish the volunteer activities), most <of us>

want [to take part (in another one) (again)]!

ボランティア活動を終えると、私たちのほとんどが他の活動にもう一度参加したいと思います！

① When we finish the volunteer activities,

- we が S (主語)、 finish が V (動詞)、 the volunteer activities が O (目的語) です。
- when は、時間を表す接続詞で、「～したとき」という意味をもちます。

② most of us want to take part in another one again.

- most が S (主語)、 want が V (動詞)、 to take part in another one again が O (目的語) です。
- of us は修飾語で形容詞のはたらきです。 most を説明しています。
- to take part in another one again は「他の活動にまた参加すること」という意味で、名詞として扱っています。
- in another one は修飾語で副詞のはたらきです。
「他の活動に」という意味をもち、 take part を修飾しています。
- again は副詞です。「再び」という意味をもち、 take part を修飾しています。